

施策分析シート（平成19年度）

No1

施策名	資源循環型社会の形成	施策No	07-03	部課名	環境清掃部清掃リサイクル課		
				課長名	松土民雄	内線 448	
関連部課名	環境清掃部荒川清掃事務所						
行政評価事業体系	分野	環境先進都市[]					
	政策	地球環境を守るまちの実現[07]					
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・大量生産・大量消費・大量廃棄の一方通行のシステムを見直し、区民、事業者、行政が連携し、それぞれの役割に応じて行動することにより、循環型社会を実現する。 ・ごみの減量と資源化・再利用というリサイクルの視点に立った循環型清掃事業を区民、事業者、行政が一体となって展開する。 						
指 標	施策の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値 (28年度)	
	ごみ排出量：トン/年	62,138	61,374	60,797	57,282	30,000	5割減が目標 (18 28年度)
	資源回収量：トン/年	11,273	11,392	11,748	11,790	17,000	5割増が目標 (18 28年度)
	集団回収モデル事業参加町会数	37	61	101	118	118	19年度中に全町会で実施
	品目拡大参加町会数			8	100	118	20年度から全町会で実施
リサイクル率：%	15.4	15.7	16.2	17.1	36.2	$(\text{資源量} / \text{ごみ量} + \text{資源量}) \times 100$	
現状と課題 (指標分析)	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ排出量については、家庭ごみの4割を占める生ごみの減量化、再生品の使用、マイバッグの利用（レジ袋の削減）等を促進するとともに、家庭ごみの有料化等も検討し、目標値達成のための施策を総合的に推進する。 ・資源回収量については、集団回収の品目拡大（ペットボトル、白色トレイ等）の実施や、分別指導の徹底等を行い、現在、ごみに含まれる資源の半分を資源回収することにより、目標値達成を目指す。 ・20年度からのサーマルリサイクルの実施に合わせ、全町会でペットボトル・白色トレイ回収を行う体制づくりを実現する。 						
今後の方向性	[平成19年度]						
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度から、ごみの分別ルールを変更するため、その前提となる再生利用施策の拡充が必須であり、単一素材のペットボトルについては、着実に収集体制を拡充していく必要がある。 ・そのため、集団回収モデル事業の拡充及び品目拡大を着実にを行う。 						
	[平成20年度以降]						
	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別ルールの変更にあたり、その確実な実施と再生利用施策の拡充が必要である。 ・荒川区の資源回収は集団回収による実施を基本としており、今後も住民が集団回収を円滑にできるよう、支援体制の充実に努めていく必要がある。 ・また、その他のプラスチックについても、再生利用のあり方について方向性を固める必要がある。 						

施策の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
B	B	資源循環型社会を実現する。

施策分析シート（平成19年度）

No2

施策を構成する事務事業の分類						
事務事業名	事務事業 No	決算額（千円）		施策推進のための 分類		分類についての説明・意見等
		17年度	18年度	前年度 設定	今年度 設定	
一般廃棄物処理業等許可 事務事業	05-02-01	0	975	B	B	業者の資質向上を図り、生活環境保全を図る必要がある。
広報普及事業	05-02-04	2,726	2,998	B	B	区民や事業者の意識改革、実践がごみ減量に不可欠である。
リサイクル実践活動事業	05-02-07	0	0	C	C	実行委員会による自主的な開催を促す方向で実施していく。
集団回収支援事業	05-02-08	122,876	192,225	A	A	良質な資源の回収、意識啓発等の効果があり、優先度は高い。
空き缶圧縮機整備事業	05-02-09	2,645	2,753	C	C	現状の体制で実施していく。
ストックヤード整備事業	05-02-10	141	224	C	C	現状の体制で実施していく。
資源回収事業 (清掃リサイクル課・荒川 清掃事務所)	05-02-11 05-03-18	120,729	63,711	B	B	集団回収との一体的な実施等により資源化を促進させていく。
トレイ回収事業	05-02-12	996	776	C	B	トレイ回収の機会を広げる必要がある。
ペットボトル回収事業 (集合住宅)	05-02-13	5,188	5,687	B	C	集団回収モデル事業等による回収に重点をおいていく。
資源化・再商品化事業 (ペットボトル)	05-02-14	11,832	10,465	B	B	回収資源を再生資源として流通させるためには、選別等の資源化が必要である。
資源化・再商品化事業 (びん・缶)	05-02-15	26,398	12,789	B	B	回収資源を再生資源として流通させるためには、選別等の資源化が必要である。
リサイクルセンター管理 運営事業	05-02-16	3,376	5,013	B	B	循環型社会を目指す区の拠点として活用していく必要がある。
ペットボトル回収事業 (店頭回収)	05-03-19	19,301	18,672	C	C	集団回収等の一体実施により、資源化を推進していく。
合 計		316,208	316,288			